

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	富士山河口湖音楽祭実行委員会	
施設名	河口湖ステラシアター	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	17,429	(千円)
公演事業	13,306	(千円)
人材養成事業	3,130	(千円)
普及啓発事業	993	(千円)

1. 事業概要

(1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	富士山河口湖音楽祭2019 シエナ・ウインド・オーケストラコンサート、プレ演奏会	令和元年8月17日	シエナ・ウインド・オーケストラ 茂木大輔(指揮)他 特別バンド等	目標値	2,000
		河口湖ステラシアター		実績値	1,440
2	富士山河口湖音楽祭2019 海外音楽チーム音楽合宿と演奏促進事業、国際交流コンサート	令和元年7月5日~7日	高木綾子(FI), ペーター・シュミードル(CI) 他台湾, 香港, 日本の各吹奏楽バンド	目標値	800
		河口湖ステラシアター他		実績値	2,158
3	富士山河口湖音楽祭2019 ピアノコンサート、ウインドオーケストラ演奏会等	令和元年8月10日~12日	上野耕平(Sx), 反田恭平, 高木竜馬, ニューニュー(Pf)他	目標値	2,000
		河口湖ステラシアター		実績値	2,183
4	富士山河口湖音楽祭2019 吹奏楽活性化プログラム吹奏楽全国トップチームによるフレンドシップコンサート、吹奏楽交流マーチングパレード演奏会他	令和元年8月16日、17日	片倉高等学校, 伊奈学園総合高等学校, 習志野高等学校(各吹奏楽部)	目標値	1,200
		河口湖ステラシアター 他		実績値	2,839
5	富士山河口湖音楽祭2019 オープニングコンサート 国内外音楽交流コンサート	令和元年8月9日, 10日	池上英樹(打楽器), 東海大学付属甲府 高校吹奏楽部, マカオフィル 他	目標値	800
		河口湖ステラシアター		実績値	1,580
6	富士山河口湖音楽祭2019 河口湖円形ホール室内楽シリーズ、一流演奏家によるアウトリーチミニ演奏会、併設ワークショップ等	令和元年7月6日 ~8月16日	茂木大輔(OB), 上野耕平(Sx), 宮川彬良(Pf, 話), 高木綾子(FI), P・シュミードル(CI)他	目標値	420
		河口湖円形ホール他		実績値	781
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>富士河口湖町は、平成15年に当時の河口湖町、勝山村、足和田村、そして平成18年3月に上九一色村の一部が分村合併により生まれた町です。旧河口湖町が平成元年から将来ビジョンとして観光産業に文化芸術を取り入れた町づくりをスローガンに、五感文化構想（視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚）を立ち上げ、ホール、美術館、ハーブ館など文化観光の拠点施設を設置し各施設が町の生産性を高めるけん引役を担い、施策によって町の人口規模も飛躍的に伸びていった町です。その中核となる聴覚分野を担う河口湖ステラシアターは、3000名収容の野外音楽堂で、平成7年の開館当時は完全な野外音楽堂であったものの、平成19年に可動屋根を設置し、全天候型野外音楽堂として現在に至ります。町直営であることを踏まえて当初から運営に住民の参画を促し、一緒に活動を共にする中で、地域文化ボランティアを中核とした富士山河口湖音楽祭を平成14年に佐渡裕さん監修によりスタートいたしました。令和元年で音楽祭は18回目を迎え、住民参加型創造音楽祭という形式の中で培ってきた実行委員であり、ホール開設当初からの文化ボランティアも企画立案の重要なポジションもできており、まさに住民と一緒にになったホール運営になっています。当初からのボランティアも90才近くになるが、今でも現役であり実行委員長も担っており、その活動の後ろ姿が、60代、70代の活動における精神的な支柱となっており、やりがいから生きがいになっております。併せて小学高学年と中学生のジュニアボランティアも大人の取り組みを見て一緒に活動をしています。国内各地で高齢化が更に進んでいる中で公共ホールの役割は、益々重要な位置付けになっており、むしろ一緒に活動していく仕組みを強化するべきかと思われまます。また、音楽祭を開催することにより、全国各地の主要な音楽祭として当音楽祭も取り上げられており、地域の文化ブランド作りにも貢献しており、また、県外から訪れる来場者も多く宿泊促進、音楽祭におけるミニ演奏会開催に伴う来場者の増加、また、周辺レストランなどホールに関わる周辺の施設が、音楽祭開催における大小合わせた60プログラムが有機的に機能し、各所に良い影響が出てきています。平成30年に制定した第二次富士河口湖町総合計画の中では、「歴史・文化の保護継承と新たな芸術文化の創造と振興」における具体的な町民の文化度を表す指標の具体的なプログラムとして、毎年夏に河口湖ステラシアターで行う「富士山河口湖音楽祭」が位置づけられています。文化が経済をリードする街づくりの中核として、音楽祭がすべてを融合する音楽を主体とした芸術文化プログラムの牽引役を担っています。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>町の生産性向上に貢献するホール、文化が経済をリードするまちづくりに貢献する視点を持ちながら、拠点となるホール（河口湖ステラシアター）が、観光地におけるホールの在り方を実践する場所となっており、周辺観光施設、飲食店、ショッピングセンター等各施設に対し、集客に伴う経済的な恩恵を与える施設となっています。併せて、外部からの流入人口を増やすことから広域的な地域の生産性を高め、新たな音楽団体の受け皿となり目的（音楽）を持った滞在の仕組みができる施設であり、町全体の魅力づくりに貢献する一助を担っています。一方で、ホールの中核事業として、良質なクラシック音楽祭があることは、地域の文化芸術性を高める機会を醸成する場となっています。また、ホールの運営側に住民も参加できる仕組みも構築しており、住民参加型創造音楽祭の形態が、文化芸術を通じた総合まちづくり事業の一助にも繋がっています。</p> <p>こうした視点の中で、7月にはアジア方面のジュニアオーケストラを招き、地元吹奏楽部等の交流事業として国際青少年交流音楽祭を実施しています。令和元年度は、7月6日（土）吹奏楽プログラムには、香港2団体、台湾1団体、河口湖町内中学校が参加し、7月7日（日）オーケストラプログラムには、台湾2団体、香港1団体、山梨県内ジュニアオーケストラが参加しました。併せて、交流音楽祭の趣旨に賛同する元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバー2人もスペシャルゲストとして参加しました。各チームは、本番の1、2日前に来町し周辺レジャー施設や美術館などでミニ演奏会も実施していることから、結果2、3日河口湖エリアに団体宿泊をしております。この事業は夏の繁忙期から少しづれており、町内の宿泊施設が少し余裕のある時期でもあるので、この事業が観光産業の隙間を埋めている一助にもなっております。併せて、地域の姉妹都市の有る無しによって子供たちの交流が左右されることなく、音楽活動を通じていろいろな国々の子供たちの交流促進にもホールが貢献できる機会を作っています。ホール事業は、自治体の姉妹交流事業よりも、フレキシブルに対応でき、地域の子供たちの国際感覚を養う機会にもなっています。また、この活動を、地域の語学ができる方がボランティアで通訳を引き受け、子供同士の交流コーディネートを実施しています。この事業に合わせて参加する元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーは、交流音楽祭の翌日に、ホールからの出張演奏として必ず学校公演を行っており、学校とホールが連携し、子供たちへ生の本物の演奏を聴かせる機会を作っております。今後も地域の経済活性化にもつながり、地域内の教育的な役割、または、文化的なまちづくりを目指しホールが主導的な立場を負っていきます。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

ビジョンとして掲げる、(1) 町の生産性向上に貢献するホール、文化が経済をリードする町づくりに貢献、(2) 人生100年時代、人がすばらしい人生を歩むための文化づくり～ホールが人の心をつむぐ100年構想、(3) 幼少期から高齢者までの地域福祉に貢献するホール、社会の交流の窓口としての役割、(4) 地域経済活性化に貢献するホール、訪日外国人の滞在における新たな仕組づくりに貢献、(5) ホールが、富士山の新しい文化づくりを育む拠点、音楽と人をつなげる交流に貢献、5つの視点を踏まえてプログラムを構築し、ホールを拠点に富士山河口湖音楽祭を開催しています。

このビジョンに対して、ホールを基軸にどのように地域に貢献していくのか、ホールの存在自体が事業を通じて更に必要性を持たれるよう様々な角度でタイアップするなどして、具体的な目標設定を行っています。

足元の地元の理解度を深める手法として、ホール運営の中に、運営文化ボランティアの仕組みを長年構築しており、助成対象プログラムである富士山河口湖音楽祭を関わりの中核事業として位置付けております。富士山河口湖音楽祭は、ホール、自治体、学校吹奏楽部顧問、一般ボランティアを構成員とする実行委員会が主体となり、それぞれの分野の皆さんの立場や意見などをまとめながら住民参加型創造音楽祭として実施しております。その中で、プログラムの回数にもよるが、令和元年の音楽祭では大小合わせ62プログラムを実施し、当初200人以上という目標設定に対し、延べ166人のメンバーが、運営文化ボランティアとして音楽祭に関わりました。プログラムの回数も多い中、一人一人の役割が深まり、運営の主体がボランティアの関わる度合いが徐々に強くなってきており、事業に関わる＝ホールに関わることにつながり、ボランティアの皆さんが自分たちの事業として、またホールも同等の受け止めとして捉えられております。ボランティアの皆さんは、周辺住民から構成されており、メンバーの中には寄り合いや地域の会合など各所に幅広くネットワークを持っており、その方々が自分たちからホールの活動をPRしており、ホールの活動を広げる大事な役割を運営文化ボランティアが担っております。

目標の中に、ホールの活動が切り口となり地域の経済的な貢献度を表す指標の一つとして、音楽祭に出演及び鑑賞等による訪日外国音楽団体数及び人数を入れております。令和元年度は、アジア方面からの音楽団体が6団体参加し、全体で380人の参加がありました。その中核となる事業が、7月に実施しました音楽祭プレ企画国際青少年交流音楽祭になります。令和元年度で5回目を迎え参加希望団体が益々増えてきています。海外から青少年オーケストラと吹奏楽のチームが来日し、出演者のみならず父兄の参加もあり、通常の海外旅行と違い、目的(音楽祭参加)を持った滞在の仕組みをホールが切り口で作っております。また、音楽祭に参加することにより、富士急ハイランドなどの観光施設や美術館などを会場にミニ演奏会も開催されることから、滞在日数が増える傾向になっております。一般旅行者と違った団体の滞在の仕組みとして強化することによって富士山の麓が、海外版音楽合宿の中心地として認知されることにつながり、引き続き強化することによって、ホールの活動が外国人の滞在の新たな仕組みを作っています。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

富士山河口湖音楽祭は当初の計画では、2019年7月5日(金)からプレ演奏会を計画し、8月17日(土)に終了する予定で事業計画を立案しました。この計画に基づき、7月6日(土)に河口湖ステラシアターで行いました国際青少年交流音楽祭に参加する香港 Fanling Lutheran Secondary School Symphonic Band が前日5日(金)に地元レジャー施設でのミニ演奏会を行いプレ演奏会として音楽祭を開始しました。その後、8月10日(土)にオープニングコンサートを行い音楽祭の開幕とし、17日(土)に音楽祭の最終コンサートとして、シエナ・ウインド・オーケストラコンサートを開催し、予定どおりのスケジュールで音楽祭は閉幕しました。

この音楽祭の特徴の一つである県内中学生吹奏楽部メンバーへの公募による中学生バンドや特別合唱団プロジェクトは、8月17日(土)の最終公演であるシエナ・ウインド・オーケストラとその前に行われるプレ演奏会に出演の枠組みを作り、このステージで指揮者や演奏家の指導や共演ができることに最終目標が設定されていることから、プロジェクトが約2ヶ月前から練習がスタートし、本番に向けてのモチベーションを構築していくには、ちょうど良い期間設定になっていると思われます。こうした一連の流れが最終日の来場者の集客力につながり、長く告知する仕組みにもなっておりますので、関わるすべての皆さんの気持ちを総合的にまとめるポイントとなっており、次年度につながる大きな土台になっています

事業費は8月17日(土)シエナ・ウインド・オーケストラ公演のチケット売り上げの伸びが予定より低いところからのスタートであり、チケット販売開始後に収支バランスを見直しながら進めていきました。その危機感から実行委員会始め、ステラシアターサポーターズ等ボランティアの皆さんの協力していただく気持ちを深くするきっかけとなり、その後、顧客リストや学校等音楽団体へのチラシダイレクトメール発送や、近隣イベントなどでの営業チラシ配布、また、音楽祭プレ演奏会から始まるミニ演奏会など各会場でのチラシ配布を行い、こうした動きと気持ちが熟成されステラシアターでの大規模コンサートへの動員につながることになりました。チケット売り上げは目標には至らない公演もありましたが、結果ボランティアの皆さん始め最終日の達成感につながり、かけがえの無い貴重な空気感を作ることができました。この気持ちが翌年度にも必ず良い形で事業を開催する上で良い動きにつながると考えます。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

令和元年度の芸術的な内容については、茂木大輔さんを中心にまとめていきました。河口湖ステラシアターをメインに行う中で、3つの大きなプロジェクトと、河口湖円形ホールによる良質な室内楽演奏と美術館でのアウトリーチミニ演奏会を開催しました。ステラシアターでは、8月9日～17日までの富士山河口湖音楽祭期間中、山梨県内中学生を公募して編成する音楽祭山梨県中学生バンドプロジェクトを指導し、また、地元アマチュアオーケストラの指揮をする機会を作り、練習から本番まで指導する機会を設けました。併せて、山梨県内在住の合唱愛好家を募集し編成する音楽祭特別合唱団とのコラボ企画も作っていきました。8月17日（土）の音楽祭最終コンサートであるシエナ・ウインド・オーケストラの演奏会を行い、合唱団、中学生バンドなども一緒に参加する仕組みを作り、約300人の出演者によりチャイコフスキーの名曲1812年を壮大なスケールで、茂木大輔さん指揮により繰り広げられました。合唱団は舞台後方のバルコニーに配置され、歌声が舞台後ろから響き渡る仕組みになり、また、半円形すり鉢型をした客席の中間列と最上階通路には、中学生バンドなど吹奏楽メンバーが入り、シエナ・ウインド・オーケストラが舞台中央をしっかりと支え、壮大なスケールで繰り広げられた演奏は、ホール中心に座る観客の周囲すべての方向から音が響き渡り、まさに音楽の祭典が繰り広げられました。終演後の鳴りやまない拍手は、古代ローマ劇場を模した野外劇場の構造を最大限に生かしたパフォーマンスであり、圧倒的な人数の出演者による音の響きが、これまで見たこともない感動の瞬間を彷彿させる結果もたらされました。参加した中学生バンドや合唱団は、終演後もその充実感の余韻に浸る雰囲気となり、感動の様子は参加された方だけが得られる感覚そのもので、涙する方や、抱き合う方、そして、何よりも音楽祭に参加された方だけが味わえる大事な瞬間が作られました。この思いが、参加者、観客の皆さんの心に宿り、演奏会を通じて、感動の気持ちを分かち合う気持ちになっています。その拠点がホールとなっており、ホールにまた新たな魂が宿る機会にもなりました。

この音楽祭の骨格を支えているのが、運営文化ボランティアの存在です。令和元年度は、延べ256名の参加があり、7月5日（金）のプレ演奏会から、8月17日（土）の音楽祭最終コンサートまで62プログラムの運営を支えています。平成10年に設立しましたステラシアターホール運営ボランティア「サポーターズクラブ」が、入り口周り専門の運営ボランティアになっており、その中から企画立案にも関わりたい方と、地元吹奏楽部先生及びアマチュアオーケストラメンバーなど実際に汗を流しながら音楽祭を取り仕切るメンバーが、音楽祭を主催する富士山河口湖音楽祭実行委員会のボランティアスタッフになります。ホールとしては、地域住民参画を促していく中で、住民と一緒にホールの歴史を作る観点から、平成7年のオープン以来、ホール運営に地元住民ボランティアの皆さんと一緒にホールを作ってきました。ホールに関わる深みを増すためもあり、平成14年に音楽祭第一回目を迎え、令和元年度で18回目を数えます。ボランティアの仕組みには、六層の仕組みを持って役割を補完しあいながら、音楽祭を繰り広げております。第一層目は、企画立案も行う音楽祭実行委員、第二層目はホール運営ボランティア組織、サポーターズクラブになります。第三層目は、音楽国際プログラムの下支えの大事に役割を負う、通訳ボランティアの皆さん、また、第四層目は、次世代を担う若年層ボランティア、また第五層目は、当日住民ボランティアになります。若年層ボランティアと当日だけのボランティアの皆さんは、施設の場所やホール運営ルールなどもわからない状況で、参加される場合が多いことから、それを補うのが二層目のホール運営専門ボランティア「サポーターズクラブ」のベテランスタッフが指導、育成にあたりながらまとめています。この全体の仕組みを、昭和音楽大学アートマネジメントコースの学生さんをインターンシップとして受け入れながら、文化ボランティア交流も行い、ホールで営まれる演奏会の運営を行っております。このボランティアの活動があるからこそ、ホールへの愛着心が生まれ、次の世代の良い見本となり、精神的な文化財産になっていることと思います。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

平成25年6月富士山が世界文化遺産登録をきっかけに、アジア方面を中心とした海外からの旅行者が増え、富士山の麓にも多くの観光客が年間を通じて訪れるようになりました。当初は富士山や河口湖を中心とした自然や眺望が来訪の目的であり、多くが大型バスを利用した団体ツアーでした。しかし、ここ数年小規模な旅行者が増え、一方でアジア方面だけでなく欧米からの多くの観光客が訪れるようになり変化していきました。その中で、再度リピーターとして訪れる方を確保していくためには、一度見た自然資産だけで長く観光展開を続けていくには、飽きる場合もあり継続性に難しい面もあります。地域に新しいアクティビティを作ることは長期的に喫緊の課題であり、目的を持った滞在の仕組みが必要とされております。幸い平成25年に国民文化祭やまなしが行われ、河口湖ステラシアターを中心会場として、美術館、レジャー施設などミニ演奏会も多く開催することができ、全国各地から日本人の来場が多くあったことから、この仕組みをそっくり残し、海外版に置き換えた経緯を持つのが、7月初旬に開催している国際青少年交流音楽祭です。令和元年度は、7月6日（土）、7日（日）2日間にわたり開催し、7月6日（土）は吹奏楽の日として、香港から2チーム、台湾1チーム、河口湖町内から中学校吹奏楽部合計4チームが参加しました。また、7日（日）は、オーケストラの日として、台湾から2チーム、香港から1チーム参加し、日本からは、山梨県唯一のジュニアオーケストラが参加しました。海外からのチームは、5日（金）～7日（日）までに、地元美術館や富士急ハイランド野外ステージ等4か所でも演奏があり、結果2、3泊宿泊をしながら、演奏会に参加しました。各チームは、演奏メンバーだけでは無く、父兄も同行しているチームもあります。各チームは演奏交流を行うため、合同演奏もありますが、更に交流を深めるため、ボランティアもてなしスタッフも参加し、バーベキュー交流会を盛大に開催します。1回に300名近くの参加者をボランティアの皆さんがお肉を焼き配膳をしながら、子供同士の交流の場を支援するようしております。このことで実質的な思い出に作りになり、思い出に残る場所になることが将来のリピーターになり、将来の海外からの流入人口の増加へつながる下地になると想定しています。また、音楽祭のレベルも維持向上させる意味で、元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーにも協力体制を構築し、合同演奏会を開催しています。2、3年後には更に団体数と新しい国々からの参加団体が増える見込みであり、更に地域の生産性を上げるプログラムになっていくものと思います。

また、音楽祭のもう一つの柱として、音楽祭中学生特別バンドの動きがあります。大きな目的の一つには将来人口の維持の視点を持っています。平成12年に89万人の人口をピークに、山梨県は現在約83万人の人口になっています。20年後には人口が約66万人にまで減少幅が大きくなる推計が出ております。その中で、地域に少しでも愛着を持ち、地域に戻り生活の拠点を山梨県内に持つ若者の定着度を深めるためには、幼少のころから楽しい思い出をたくさん作り、山梨で将来生活をしようと思う心の基盤を作る思いも持ってこのバンドプロジェクトを開催しています。令和元年6月から8月の本番まで3回の練習会を作り、8月9日（金）～11日（日）2泊3日の合宿、その上で8月17日（土）に音楽祭最終公演として、茂木大輔指揮シエナ・ウインド・オーケストラコンサートを開催し、その枠組みで茂木大輔さん指導による本番演奏がたくさんの方を迎えて開催されました。総勢105名の中学生は、県内から20校の中学校から参加があり、音楽祭のバンドプロジェクトを通じて他校同士の仲間が増え、学校の枠組みを超えた吹奏楽部内での交流が生まれ、活動の幅が広がる機会になっています。また、吹奏楽バンドプロジェクトと同時に、公募プログラムとして、音楽祭特別合唱団を編成しています。山梨県内合唱愛好家を公募し、県内各地から総勢54名の参加があり、6月から練習がスタートしました。8月17日（土）の音楽祭最終公演に向けて練習を続け、最終公演では、チャイコフスキー1812年を茂木大輔さん指揮、シエナ・ウインド・オーケストラの演奏により、中学生バンドと一緒に壮大な音楽パフォーマンスを披露し万感の思いを持った客席に座る観客から鳴りやまない拍手が送られました。音楽祭最終公演は、特別編成バンドや合唱団の練習の流れから、8月17日（土）の音楽祭最終コンサートによって最後にまとめる形式をとっており、出演者にとっても河口湖ステラシアターのステージに乗ることが最大の目標であり、総合芸術としての音楽ステージがこの最終公演で繰り広げられています。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

河口湖ステラシアターは平成7年5月開設以来、住民の参画をホール運営の根幹に据え、各コンサートを住民が鑑賞するだけでなく、来場者をもてなす側にも住民が立つ仕組みを作り運営しております。一方で、観光地におけるホールの有り方を実践する場所であり、文化が経済をリードするまちづくりの中心施設でもあったことから、地元主要産業である観光に対して、文化芸術をマッチさせた事業展開を行う中心施設としてホールを活用し、町の生産性向上をけん引する施設としても位置づけております。平成10年5月にオープン以来参画してきた文化ボランティアを中心メンバーと一緒に発展的に組織化していく中で、ステラシアターサポーターズクラブに名称も新しくして、ホール運営を主体とした文化ボランティア組織としてホールを支え、現在に至っております。

富士山河口湖音楽祭を実施する中で、行政、吹奏楽連盟や合唱連盟といった各種団体、地元オーケストラ団体メンバーや学校吹奏楽部顧問、そして、ホール運営文化ボランティア組織サポーターズクラブと、実質的に取りまとめる役割のホールが一緒になりながら、河口湖ステラシアターをメイン会場として音楽祭を開催しています。サポーターズクラブの令和元年度登録者は59名が登録をしており、その中の2名が運営だけではなく企画立案も行う音楽祭実行委員会に所属しております。音楽祭期間中は、運営ボランティアが延べ256名参加しましたが、その中で、平成30年度から新たに若年層ボランティアの育成目標を掲げて、サポーターズクラブジュニアメンバーを組織化しており、令和元年度は、小学校5、6年生が3名が登録し、また、地元中学校から職場体験ボランティアとして2名が参加し、大人と一緒にボランティア活動に参加しました。令和元年度のジュニアボランティアの参加はいずれも富士山河口湖音楽祭のみに参加することとし、大人の業務と並び背筋を伸ばしてきちんと接客に務めていました。富士河口湖町は周辺の自治体が人口減少に歯止めがかからない中で、町の施策を通じて人口を伸ばしている自治体であり、その中核は町五感文化構想と称し、「文化観光」「文化教育」に力を入れてきたことが大きいと思われれます。約10年後には人口減少が進んでくると思われれますが、その前に町の魅力を育み、年少から地域に関わり愛着を持つことが人口減少抑制につながる一つの要素であると思われれます。その中で地域の主要な施設であるコンサートホールに年少時から関わることも非常に重要であると思われ、平成30年からジュニアボランティアの養成に入ることとしました。ジュニアメンバーが入ることによって、年配のボランティアの会話も広がり、音楽祭が地域のコミュニケーションを広げる役割も出てきており、地域社会のつながりが希薄になってきている現状の中で、こうした世代を超えた交流が町を活性化させる要素になっております。

平成22年度から昭和音楽大学と連携して事業を取り組む活動を行い、令和元年度で10年目になります。これまで23名の学生が文化ボランティアメンバーとして参加し、地元文化ボランティアと一緒に活動する中で、運営業務などを行い、ボランティア交流を行いました。令和元年度は3名が参加し、8月7日（水）から18日（日）までの12日間滞在しました。メンバーの中には2年目となるメンバーもおり、ステップアップした形で、主要なプログラムの入り口周りの運営業務を任せるなど社会人になり実践で役立つような仕組みを構築し具体的に展開しました。富士山河口湖音楽祭では、年配の方が多い運営ボランティア組織ステラシアターサポーターズクラブメンバーや、小中学生による地元ジュニアボランティア、アートマネジメント専門大学からの学生文化ボランティアの関わりなどいろいろな所属から成るボランティアの仕組みの中で、プログラムを開催し、運営していることから、富士山河口湖音楽祭の開催を通じた河口湖ステラシアターにおける複合的な文化交流拠点になっており、関わりの度合いが深く相互にコミュニケーションを図らないと運営に支障を来す原因にもなることから、ホールに対して深く思いを持つ機会にもなっております。